

## 2. 地域が主体となった世代間交流と見守りの構築に向けて

松本市地域づくりインターン3期生 小林 克紀

### 1. はじめに

近年、地域での近所付き合いの希薄化が課題となっている。内閣府国民生活局による「国民生活選好度調査」近所付き合いの程度を平成12年と平成19年で比較すると、「よく行き来している」及び「ある程度行き来している」が減り、「あまり行き来しない」や「ほとんど行き来しない」が増える結果となっている。「近所付き合いに当てはまる人がいない」という回答も含めると6割が近所付き合いに消極的であることがわかり、年々疎遠になっていることがいえるであろう。

また同時に、平成18年に文部科学省が実施した小中学生の保護者を対象としたアンケート調査では、5割以上が「地域の教育力が以前に比べて低下している」と回答している。この回答から、日常的な地域における交流の機会が減り、その結果地域への愛着が薄れ、「地域の子どもは地域で育てる」という意識も希薄化していることが窺える。子ども時代の様々な年齢層の人々とのふれあいは異なる価値観や考え方との出会いであり、他者への説明、自分と他人の比較、感情のコントロールなどの社会的なスキルの向上につながっていると考える。このため、地域と子どもの関係性の希薄化は子どもにとって大きな影響を及ぼすといえる。

筆者の担当している寿地区でも、地域づくり協議会役員で、子守りがどうしても必要なため、近所の方に助けを求めたが、「1度引き受けると次が断りにくいから」と言われ断られたことのある部会員がいる。この出来事を話し合いの場で共有した際、近所付き合いが変わっているという点において共感する部会員が多くいた。

また、別日の地域づくり協議会での話し合いの場では、地域から小学校へ子どもに関する苦情が増えていることが明らかになった。この話を聞いた際は最近、問題を起こす子どもが増えていることが苦情となっていると感じた。しかし、実際に

どのような苦情が増えているのか確認すると、以前では地域の大人が子どもに注意し解決していた内容であることがわかった。このことから、地域で子どもに教える注意するといった関係性が昔と比べると変化しているといえる。

このように寿地区においても近所付き合いだけでなく、地域と子どもの関係性が希薄化しており、それにより課題が生じているのが現状である。このため、地区として近所付き合いや地域の大人と子どもの関係性の再構築は取り組む必要があるといえる。

### 2. 寿地区概要

筆者が担当している寿地区は松本市街地から南方6kmほどに位置し、住宅地と農業地がバランスよく混在している地区となっている。地区人口は松本市35地区のうち、5番目に多く2,000人を超している町会が複数ある。また、高齢化率は松本市平均よりも低いことから人口が多く、若い世代の多い地区といえる。しかし町会単位で見ると、人口、高齢化率には大きな差があり、高齢化が進んでいる町会では、役員の担い手不足といった課題も起きている。

地区活動の特徴としては、平成27年4月から発足した寿地区地域づくり協議会がある。この地域づくり協議会では6つの専門部会に分かれて、部会員との協議や講師を招いた学習会、視察研修の実施し地区課題への検討を進めている。

また、寿地区の交通状況として、バス路線が一本通過するのみとなっており本数も少ない。電車も最寄り駅は隣の地区である芳川地区となるため、自動車を所持していないと移動への不便さがある。現状として、高齢者の移動手段に関する問題はあまり浮上していないが、高齢化が現在よりも進んだ数年後の地区課題となる可能性はあるといえるであろう。

### 3-1 昨年度の振り返りと今年度の研究目的

昨年度は、寿地区育成会会長がPTA役員から「子どもの居場所がほしい」という話をうけたことがきっかけとなり、寿小学校の空き教室で世代間交流の実施を検討する「空き教室利用プロジェクト」の一員として準備を重ねた。この準備としては、小学校側との意見交換を重ね、時間帯や活動内容、計画について話し合った。また、先進事例である上田市立神科小学校の空き教室にて世代間交流を行っている「おたすけっ十有志隊」への視察研修に行き、世代間交流への参加と有志隊メンバーとの意見交換会を行った。これまでの意見交換と視察研修から、実施時間は2時間目休みの20分間とし、昨年度の1月から2月に寿小学校でも世代間交流を計3回実施するまでに至った。また、地域社会の子どもにおける課題として、「サンマ(時間・空間・仲間)の喪失」と「関係性の喪失」が生じている点については、この世代間交流を実施していくことで「サンマの回復」と「関係性の回復」につなげることが期待できそうという手ごたえを感じた。

この3回の世代間交流を実施して、次年度も継続して行いたいという意見がプロジェクトメンバーから多くあがったことから、活動を平成30年度も継続して行うこととなった。

今年度は月2回のペースで世代間交流を実施し、地域社会の子どもにおける「サンマ(時間・空間・仲間)の喪失」と「地域と子どもの関係性の喪失」という課題解決につながるのか検証していきたい。また、児童と地域住民の関係性という点だけでなく、小学校内に世代間交流の場があることで副次的な効果があるのではないかと考えられる。これについても検証していくこととする。活動詳細と活動日の流れについては、以下の表の通りである。

#### 【活動詳細】

- ・団体名 にこにこルーム応援隊
- ・ボランティア人数 23名
- ・活動場所 にこにこルーム(寿小学校多目的教室)
- ・対象 寿小学校全学年児童
- ・活動日 毎月第2、第4金曜日  
(夏休みなど長期休み期間を除く)
- ・交流時間 小学校2時間目休み
- ・交流内容  
かるた、クロック、お手玉、あやとりといっ

た昔ながらの遊びをメインにボランティアと児童が交流する。

#### 【活動日の流れ】

- 10:00~10:10  
ボランティア集合、準備
- 10:10~10:20  
ボランティア打ち合わせ
- 10:20~10:40  
世代間交流実施
- 10:40~11:30  
片付け、お茶会兼反省会

### 3-2 年間を通した実施の成功要因

今年度は、4月から3月にかけて計21回の世代間交流を実施した。まず、児童の参加人数をみると、初回46名の参加を皮切りに、1学期終了まで右肩上がりに児童数が増える結果となった。2学期以降になると徐々に参加人数が減少傾向になったものの、毎度少なくとも50名近い児童が集まる場となっている。また、ボランティアは毎度平均して15名ほどが集まる場となっている。児童とボランティアは集まるだけでなく、双方が一緒に遊び、話をするといった様子を見ることができていることから、世代間交流の場として機能したと考えられる。

この活動が世代間交流の場となった要因は複数あると考えている。第一に、遊びの内容とである。実施している世代間交流は、あやとりやお手玉といった昔ながらの遊びを中心に行われている。このような昔ながらの遊びはやってみると面白いと感じる児童が多く、関心は高いように思えた。活動当初はボランティアが遊びを児童に教えながら交流をする様子がみられたが、活動を重ねるごとに、児童もボランティアから教わった以外の技を練習して、ボランティアに教えるといった様子もみられた。このように、楽しく交流を行うだけでなく、児童とボランティアがお互いに「教える、教わる」といった関係性となっていることが、継続した実施につながっているといえる。

第二に、小学校を拠点としたことや実施時間という点は大きかったと考えられる。小学校の授業

日に小学校内で実施したため、児童にとってはすぐに行ける距離という認識が生まれ、参加へのハードルは低くなっていると考えられる。また、2時間目休みに交流を実施したことにより、児童にとって開始時間、終了時間に違和感無く入り込めたことも大きな要因となった。ボランティアにとっても20分間という交流時間は「お茶会を含めても午前中にうちに帰ることができて良い」といった声を聞くことができた。これらのことから、双方にとって無理のない範囲で交流を行うということは定期的な交流実施にとって重要な要因の1つであったことが考えられる。

第三に、小学校側から協力を得られたことも関係していると考えられる。今年度当初、児童はにこにこルーム応援隊が世代間交流を行っていることは知っているものの、「行っても良い場所なんだろうか」という思いを持っていたようである。このため活動初期は、活動日に担任の先生から朝の会の時間に、児童への呼びかけが行われた。この呼びかけにより、活動内容について知ると同時に、児童にとって「気軽に行っても良い場所」という思いが生まれ、参加する児童数が増えていったことにつながった。

### 3-3 サンマ(時間・空間・仲間)の回復という視点から

ここで検証課題としていた「サンマ(時間、空間、仲間)の喪失」と「関係性の喪失」という点において検証していくこととする。まず、時間という視点でみると、前章にて述べたように世代間交流は20分間という定期的な実施を行っている。このため、2時間目休みという限りのある時間ではあるものの、時間という点においてはクリアしているといえるであろう。また、子どもの現状として放課後を塾や習い事に通う時間とすることで、時間に追われる子どもが増えていることが明らかになっている。この時間に追われる子どもにとって、日中という時間に世代間交流の場があることで、1日のうちで落ち着くことのできる場となるのではないかと考えられる。

次に空間という視点でみると、世代間交流では小学校の空き教室と教室前の廊下を使用している。小学校内に交流場所をつくるということはでき、参加児童数が100名を超えない日には、空間とし

て使用することに問題はなかった。しかし、参加児童数が多くなった夏場には教室、廊下ともに児童でいっぱいになってしまい、のびのびとした空間にはならなかったと感じた。この窮屈な空間となってしまったことにより、十分な交流ができなかったことにつながり、終了前に教室に戻ってしまう児童が数名出てしまった。この問題に直面した際に、ボランティアで話し合いを行ったところ、「野外を交流の場として使用したらどうか。」という案が出た。教室外を使用することとなると、のびのびとした世代間交流の空間につながるが、現状、ボランティアの人数不足や安全面を考えると実施は難しく、野外の利用とは至らなかった。このことから、空間においては今後の検討課題といえる。

最後に仲間という視点でみると、世代間交流には全学年が参加できる場となっているため、学年やクラスの違う児童が集まる。このため、学年やクラスの枠を超えた交流のできる場となっている。実際の遊びの様子をみても、学年別に分かれて交流をしている様子はなく、全学年が混じって交流を楽しんでいる様子がみられた。このことから、児童同士の交流の場となっていることがいえる。

### 3-4 地域と子どもの関係性の回復

年間を通した実施の成功要因でも述べたが、活動を重ねるごとに、世代間交流を通じた「お互いが教える、教わる」という関係性ができている。また、こま回しが得意で世代間交流にて児童にこま回しを教えているボランティアがいる。このボランティアが都合により欠席した際に、児童から「今日はこまを教えてくれるおじちゃんはいないの?」と聞かれたことがあった。このことから、活動を重ねるごとにボランティアと児童の距離が近くなっているといえる。

また、学校の外にて、児童と会った際、挨拶だけでなく、世代間交流で行われているあやとりの話をしたというボランティアがいた。このボランティアは、児童が覚えていてくれたことに嬉しい気持ちを抱いたようで、また交流したいという思いにつながったと話してくれた。このことから、世代間交流を継続して行うことで、より多くの児童との関係性の構築にも期待できると考える。



### 3-5 季節ごとの企画の実施

4月より世代間交流を開始し、活動に慣れが生じてきた7月に通常の交流内容とは別に、七夕企画として、短冊とささおねづくりを実施した。この実施にあたり児童と話をすると、児童館に通っている児童は短冊を書くものの、児童館に通っていない児童はあまり書いていないことがわかった。この現状をボランティアと話し合ったところ、「季節ごとの行事を児童に体験してもらいたいし、必要があると思う」という話になったため、ハロウィン企画やクリスマス企画といった企画も行った。

このように季節ごとの行事体験というニーズ発掘にもつながり、それを体験できる場と学びの場となった。にこにこルームはボランティア人数や部屋の広さが限られていることもあり、実施内容は限定されてしまうこともあるが、次年度も季節に応じた企画は継続して実施していけるようボランティアと相談していきたいと考えている。

### 3-6 地域づくり協議会福祉を語る会での活動報告会

寿地区地域づくり協議会では、年度末となる3月に福祉を語る会という集まりを開催している。この福祉を語る会とは、地域づくり協議会の各部会の年間の活動発表と講演会が内容となっている。この福祉を語る会は、誰でも参加できる集まりであるため、毎年地域づくり協議会役員だけでなく、多くの地区住民が参加する場となっている。今年度は、この講演会の枠を白川町会の出前地域ケア会議とにこにこルーム応援隊の発表時間に決まったため、応援隊長と筆者で、にこにこルーム応援隊の発表を行うことになった。

発表資料を応援隊メンバーと相談しながら作成するにあたり意識したこととしては、より地区を巻き込んだ活動にしたいと考えているため、活動の様子がわかりやすいよう当日の活動の流れに重点を置く発表とした。発表を終えた所感として、地区の方は活動を知ってはいるものの、具体的にどんな内容を行っているのかは初めて知ったという方が多いことがわかった。また、活動では昔ながらの遊びを中心に行っていることから、高齢者の世代に興味を持ってくれたように思えた。このため、福祉を語る会の参加者のみではあるが、周知という目的は果たすことができた。にこにこルー

ム応援隊は、まだ、発足して1年も経過していないこともあり、地区全体に浸透していないと感じることがある。今回の発表をきっかけに、多くの地区の方が応援隊として参加するようになると、より地区全体を巻き込んだ活動になるのではないかと考えられる。

### 3-7 考察

以上から、小学校における世代間交流を定期的に行うことにより、子どもの「サンマ」の回復へ少しずつ前進していると考えられる。「サンマ」のうちの時間、仲間という2点においては、今後も継続して活動を行うことでより効果が深まらばあろう。残りの空間については未だ課題が残っている。現時点では、ボランティアの間で昨年度に視察研修を行った上田市の神科小学校のようにペランダの活用が浮上している。この案も含めて、空間については次年度の課題として検討していきたい。



【写真1】 普段のにこにこルームの様子



【写真2】 七夕企画実施の様子

また、副次的な効果としては、季節ごとの伝統的な企画というニーズがあったことが明らかになった。このように、活動を継続することで様々なニーズの発掘にもつながるのではないかと考えている。また、にこにこルーム応援隊の活動は、児童だけでなくボランティアにとっても居場所としての効果があると考えている。次年度は児童とボランティアの関係性だけでなく、ボランティアにとって、にこにこルーム応援隊に参加することによる利点も調査していきたい。

## 4. 寿地区地域づくり協議会 児童福祉部会の取り組み

### 4-1 昨年度までの児童福祉部会の取り組みと今年度の取り組み内容の検討

筆者は昨年度から寿地区地域づくり協議会の児童福祉部会に所属し、地区内の子どもに関する課題発掘や事業の検討に取り組んでいる。昨年度の児童福祉部会としては、「空き教室利用プロジェクト」と共同で、前に述べた寿小学校にある空き教室での世代間交流に向けた準備、検討と計3回のプレ実施を行った。この寿小学校での世代間交流は「にこにこルーム応援隊」として正式に組織化したことから、今年度は児童福祉部会としての、新たな活動目標を考えていることから始めることとなった。

このため、今年度に初めて部会員が集まる第1回地域づくり協議会専門部会では、活動目標の設定を目的としたワークショップを実施することとなった。ワークショップの項目としては、「寿地区の子どもに関することで知っていること」、「子どもに関して課題だと思うこと」、「寿地区にあったらいいなと思う場所や仕組み」の3つとし、幅広い視点から意見を出せるようにした。

### 4-2 ワークショップによる課題発掘と活動目標の決定

このワークショップでは、課題と感ずることとして、子どもの見守り、交通、子どもの放課後の居場所といったように様々な意見が出る場となった。また、部会員の所属町会が異なっていること、民生児童委員やPTA、子ども育成会といったように子どもに関わっている役職の方が集まっていたことから、それぞれの役職の実情を全体で共有できる機会となった。このワークショップは2グルー

プに分かれて実施したため、最後に両グループでの意見をまとめると、「子どもの見守り」と「交通」の2点が両グループで中心的に話題となっていることが明らかになった。この2つの話題について検討を進めると「子どもの見守り」に関しては、町会によって見守り隊としての活動の有無だけでなく、組織の有無が不明であることが明らかになった。交通に関する話題は下校時における通学路の不安など「子どもの見守り」という点と被ることから、今年度の児童福祉部会としては「子どもの見守り」について考えることを活動目標とした。

### 4-3 地域社会における子どもの見守りの必要性

長野県警察子供安心安全情報では、「全国でも、子どもが犯罪被害者となる凶悪事件が後を絶ちません。子どもに無関心であることは犯罪を誘発してしまう恐れがあるため、地域ぐるみで子どもを見守る活動に取り組むことが必要です」と記されている。このように登下校中に子どもが犯罪に巻き込まれる事例が後を絶たず起きているのが現状である。

長野県警察による「平成30年中の子どもに対する声がけ事案の発生・分析結果」によると、県内だけでも年間で430件に及ぶ事案が起きている。寿地区においても平成29年度に寿小学校から1kmほどの距離にある才教学園小学校・中学校にて職員が切りつけられるといった事件が起きた。この事件もあり、寿地区においても子どもの見守りに関して、不安の声もあがっていることから、地域での対策が必要である。

また、広島県警察官の小西明氏は、「地域の子どもと大人が相互に関わりあう地域社会を目指し、取り組みを進めているが、子どもが犯罪被害にあわないために、子どもたちに人を警戒することを教えている。こうした指導は、子どもたちが知らない人に挨拶をしてよいのか、あるいは警戒すべきなのかわからなくなり、混乱するばかりか知らない大人に対する不信感を高め地域社会の連携を阻害する可能性が出てくる」と記している。このことから、地域と大人を切り離すのではなく、地域ぐるみで子どもを守り育てることが必要といえる。

#### 4-4 アンケート調査の実施と調査結果を踏まえた話し合いの実施

部会員の話から、寿地区の子どもの見守りの現状としては、前に述べたように活動の有無だけでなく、そもそも組織しているかが不明な町会があることが明らかになったため、まずは町会ごとの見守りに関する現状を把握するところから始めることとした。把握方法としては見守りに関するアンケート調査を行った。アンケート用紙の作成と集計は児童福祉部に所属している公民館主事と筆者が担当し、部会員が各町会長に聞き取り調査を行った。なお、部会員が不在な町会においては、町会の民生児童委員に依頼し町会長への聞き取り調査を行った。アンケートの聞き取り内容と結果については以下の通りである。

##### 寿地区各町会における見守り隊調査について

##### 1. 子ども見守り隊の組織について

組織している 5町会 組織していない 7町会  
※組織していない町会の理由

- ・回覧等で募集しているが応募者がいない。  
(住民による町内の見守りは毎日、順番制で行っている)
- ・以前は組織化されていたが、活動が伴わなかったため自然消滅の状態となっている。
- ・町会の組織にも入っていない。今まで組織されていたことも無い。
- ・住民やPTAから要望があがっていない。
- ・団地なので転入、転出が多くPTAの組織に任せきりになっている。
- ・見守り隊発足当初は、名簿を提出する経過もあり町会の役員育成会の役員OBに名簿をお借りして組織していましたが、もともと活動実態の無いものであり消滅したものだと思います。
- ・組織におろしてしまうと抵抗があるのではないか。特に昨日の地震や世の中の動きの中で必要性を感じている。希望者を募ってみる。(2人でも3人でも)

##### 2. 子ども見守り隊登録人数と平均参加人数(組織していると回答した町会)

- ・登録14~15人のうち平均1~5人
- ・登録6人のうち平均6人
- ・登録15人のうち平均1人
- ・登録8人のうち平均4人

・登録17人のうち平均5人

##### 3. 活動について

活動している 5町会 活動していない 7町会  
活動をしている町会

活動頻度について

不定期 1町会 週5回 3町会 その他 1町会(4月と交通安全週間)

活動時間帯

決まっていない 1町会 登校時のみ 2町会 登下校時 2町会

活動場所

決まった場所 4町会 巡回している 1町会

活動に関する会議の開催について

開催している 1町会 開催していない 4町会

(うち1町会は過去に実施したことあり)

##### 4. 見守り隊の会則等について

ある 2町会 ない 3町会

##### 5. 怪我等に関する保険について(組織化していない町会も含む)

加入している 6町会 加入していない 1町会

##### 6. ユニフォームについて

ある 2町会 ない 5町会(うち3町会がネームカード、腕章、チョッキを使用している)

##### 7. その他

隊員の高齢化と募集してもなかなか賛同してくれる方が少なくなっている。

アンケート調査の結果から、子ども見守り隊を組織している町会は5町会、組織していない町会は7町会であり、組織していない町会が多いという結果が得られた。また、組織の有無という点だけでなく、組織化に至っていない理由や町会としての現状を把握することができた。組織していない町会の中でも組織化という話が出たことのない町会もあれば、見守りの必要性を感じている町会もある。このように組織化していない町会でも違いがみられた。

また、組織化している町会でも後継者不足という課題を抱える町会がある。アンケート調査では1町会であったが、後の話では他の組織化している町会でも後継者の不足を感じる町会があることがわかった。また、組織化していない町会には、



以前は組織化し活動していたが現在は活動を行っていない町会がある。時間が経つにつれて活動がなくなった要因として、住民の負担が考えられている。このことからハードルの低い見守りを行うことも1つの案としてあるのではないかと考えられる。

このアンケート結果は、第2回地域づくり協議会専門部会にて部会員と共有し、アンケート調査を踏まえて今後の方針が話し合われた。話し合いでは、子どもが巻き込まれる犯罪が増えているという現状や、そのためにも見守りは必要という意見が出た。一方で普段日中働いている方にとっての登下校という時間に見守りを行うことは、負担が大きいという意見も出る結果となった。このことから、まずは地区にとって負担の無いかたちでの見守りを模索していくことが必要であると考えられる。また、部会員であるPTA役員の意見から、一部の町会にて行われている見守り活動を知らない人が多いことがわかったため、負担のないかたちでの見守りだけでなく、周知という面においても必要があるといえる結果となった。

#### 4-5 他地区での見守り隊の活動について

負担のない見守りを模索していく中で、寿地区の隣である中山地区が見守り活動を行っていることが児童福祉部会長との話で明らかになった。中山地区での見守り活動は、福祉ひろばが事務局となっている。このため中山地区福祉ひろばコーディネーターに講演を依頼し、2月の地域づくり協議会専門部会にて中山地区での活動概要を話していただいた。

中山地区での見守り活動は、町会によって見守りの実施方法は異なっているが、各町会の見守り責任者は副町会長が担っていること、どの町会も無理のない範囲で行うことを前提としていることが明らかになった。また毎年、年度末に各町会が集まり総会を実施していることが各町会のモチベーションにつながっている。この話から、活動範囲は町会で別々ではあるものの、地区で一体となって見守りを行っているがいえるであろう。今後も他地区での見守りも学習して、より寿地区にあった活動を検討していきたい。

#### 4-6 考察

今年度は各町会における見守り状況をアンケート調査から行い、地区としての見守りに向けた検討を進めてきた。各町会へのアンケート調査を実施したことで、各町会の現状把握をすることができた。また、このアンケート調査を行ったことで、地域づくり協議会の会議でも議題となる機会が増えている。児童福祉部会員だけでなく、地域づくり協議会でも議題となっていることから、少しずつ見守りへの認識が広まっているのではないかと感じる。地区全体への周知にはまだ至っていないため、今後、地区全体を巻き込んでいくかが課題と考えられる。

また、次のステップとして具体的な部会での活動を検討している段階で年度末を迎えることとなった。今年度最後の話し合い後の反省会では、部会員が集まる機会の少なさが課題としてあがった。部会員の負担と、焦らずに進めていくという点を考慮して、3回という実施回数に至ったが、実施回数を増やしても良いのではという意見も部会員から出ている。次年度は活動について検討をすると同時に部会員が集まり話し合う頻度についても検討する必要がある。

### 5. 今年度の活動を終えて

今年度は小学校における世代間交流と地区での子どもの見守りの2つを中心に活動を進めてきた。小学校における世代間交流については年間の活動を通じて課題が残りつつも、軌道に乗ったとみている。また、児童や小学校側から、「世代間交流を毎週やってほしい」という要望があることが年度末のこころルーム応援隊総会にて明らかになった。現状、ボランティアとしては、この要望に答えたいという気持ちがある一方、無理のない範囲で行うことが継続した実施につながると考えられる。このため、次年度も今年度と同じ頻度で実施していくこととなった。ボランティアの中で、できるだけ要望に答えたいという気持ちもあることから、できるだけ双方のニーズに合わせた実施も検討していきたい。また、今年度の活動を終えてボランティア同士の関係性も強くなってきた。活動日には、反省会を兼ねたお茶会といったボランティア同士が話し合う時間もあるため、町会ごとの現状把握や課題発掘の場となる可能性がある。

引き続きボランティア同士のつながりの場という視点でも検証していきたい。

子どもの見守りについては、アンケート調査や中山地区の事例学習といった土台づくりとなる活動を進めてきた。検討を重ねるごとに、「負担の少なさ」が見守りのキーワードとなるのではないか。部会としては「小学校の集団下校時に合わせた見守り活動」といったように活動案は少しずつ出ているが、案を出しあう段階で1年が終わってしまった。今後の方向性として、「買い物や農作業のついでに行う見守り」を検討することが、一歩目のハードルが低く、継続した見守りの実施につながると考えている。このため次年度は、「負担の少ない見守り」を行うことは継続した実施につながるか、また継続するための要因も検証していきたい。

世代間交流と子どもの見守りの両方の活動においても、ボランティア、部会員だけでなく、地区全体で考えていく必要があり、周知とすることも忘れずに取り組んでいきたい。また、次年度はインターンとして最終年となるため、この2つの活動を進めつつも、インターン終了後も活動が続いていくように引き継いでいく点も意識していきたい。

#### 引用文献等

- 内閣府 特集「家庭、地域の変容と子どもへの影響」  
gaiyoupdf/pdf/gaiyo\_tokushu.pdf  
長野県警察 子供安心安全情報  
<https://www.pref.nagano.lg.jp/police/anshin/kodomojosei/kodomo/kodomo.html>  
『子供を犯罪から守る活動のあり方』小西明著 平成21年財団法人公共政策調査会懸賞論文



【資料1】 平成30年度にこにこルーム応援隊活動報告

平成30年度にこにこルーム応援隊活動報告

日にち		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	児童	応援隊	備考
4月13日(金)	男子 女子								46	17	活動終了後、総会開催
4月27日(金)	男子 女子								69	11	
5月11日(金)	男子 女子							32 52	84	13	3年生地域探検
5月18日(金)	男子 女子							39 80	119	15	
6月8日(金)	男子 女子							67 87	154	15	シニア活動コーディネーター大塚さん視察
6月22日(金)	男子 女子	26 18	33 28	8 9	3 7	0 0	0 0	70 64	134	16	社会教育委員西口さん、教育政策課三沢さん視察
7月13日(金)	男子 女子	26 31	27 18	6 17	4 6	0 0	0 0	63 76	139	19	七夕企画、社会教育委員13名 教育政策課三沢さん、中央公民館主事視察
7月20日(金)	男子 女子	33 31	23 18	28 18	10 21	4 4	2 2	100 94	194	19	七夕企画2回目
8月24日(金)	男子 女子	32 32	21 29	7 4	3 15	0 0	1 1	64 81	145	12	
9月14日(金)	男子 女子	17 33	28 36	2 3	4 16	0 0	0 0	51 78	129	15	6年生振り替え休日
9月28日(金)	男子 女子	19 20	26 21	4 5	1 0	0 0	0 0	50 46	96	17	6年生筑中文化祭参加
10月12日(金)	男子 女子	14 13	19 15	3 8	0 0	0 0	2 0	38 36	74	15	ハロウィン企画、終了後かかしづくり
10月19日(金)	男子 女子	12 11	20 24	2 5	0 2	0 0	0 2	34 44	78	10	ハロウィン企画、終了後かかしづくり
11月9日(金)	男子 女子	22 26	14 20	3 1	0 0	0 0	0 2	39 49	88	14	
12月7日(金)	男子 女子	10 17	13 37	4 3	1 3	0 0	0 3	28 63	91	17	
12月21日(金)	男子 女子	0 0	18 21	5 9	0 0	0 0	0 2	23 32	55	21	クリスマス企画、終了後6年生特殊詐欺寸劇
1月11日(金)	男子 女子	7 18	4 14	7 6	0 1	0 0	2 1	18 40	58	18	5年生スキー教室
1月25日(金)	男子 女子	4 13	10 21	2 2	0 4	0 0	0 0	16 40	56	19	
2月8日(金)	男子 女子	9 13	16 18	2 2	0 2	0 0	0 0	27 33	60	20	市議会議員青木さん、未来の宝育み委員会 由比ヶ浜さん視察、4年生スキー教室
2月22日(金)	男子 女子	1 15	8 16	2 0	0 2	0 0	0 0	11 33	44	18	
3月8日(金)	男子 女子	7 22	22 27	2 7	3 4	0 0	0 0	34 60	94	15	活動終了後、総会開催
年間合計	男子 女子	239 303	302 372	105 202	28 106	4 8	3 14	681 1001	1682	321	